

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

個々に応じた教育活動を通して、社会において自立できる生徒を育成し、地域に信頼される学校をめざす。

- 1 自分を大切にするとともに他の人も大切にすることを育成する。
- 2 将来の生き方やあり方を見つめ、未来を切り開く力を養い、自立した社会人を育成する。
- 3 学ぶ喜び、わかる喜び、達成感を味わわせ生涯にわたって学び続ける態度を育成する。
- 4 生徒を支援・指導する力を教職員がより高め、生徒が信頼して相談したいと思える学校（心の居場所）づくりを行う。

2 中期的目標

1 安全安心で魅力ある学校づくり

(1) 生徒の居場所づくりと個々の生徒への支援体制の強化

ア 教育相談体制の確立

- ・生徒一人ひとりに寄り添い、教員と生徒との信頼関係を築き、生徒が学校に行きたいと思える学校づくりを行う。
 - ・ケース会議などを通じて生徒情報の共有を図り、生徒一人ひとりに応じた生徒支援・指導を行う。
- ※生徒向け学校教育自己診断の項目「悩みや相談にのってくれる先生がいる」の肯定率（R02 95%・R03 81%・R4 100%）90%以上を令和7年度まで維持する。

イ 個に応じた支援体制のさらなる充実と外部人材の活用及び関係機関との連携

- ・支援コーディネーターを中心に SC、SSW と関係機関、教職員、保護者（生徒）の4者（5者）が有機的に連携協力できる体制づくり。
 - ・様々な生徒支援や生徒のコミュニケーション能力の育成に関する外部人材の活用および教員の校外の研修への参加。
- ※教員向け学校教育自己診断の項目「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」の肯定率（R02 75%・R03 83%・R04 74%）を令和7年度に90%以上にする。

※様々な生徒支援や生徒のコミュニケーション能力向上等の教員向け研修への参加者数（R01 209人・R02 70人・R03 51人・R04 112人）100人以上を令和7年度まで維持する。

ウ 命を守ることや健康を維持増進することに主体的に取り組む力を育むために保健、交通安全、薬物乱用防止、防災・防犯についての教育の充実を図る。

- ・生徒の心身の状態を日常的に把握し、適切な対応をすることで生徒が安心して学ぶことができる環境を整える。
- ・地域や公的機関等の外部人材を活用した教職員、生徒への研修や講習を実施する。

※外部機関等との連携による避難訓練や講習、校内研修（R03 2回・R04 3回）年3回以上を令和7年度まで維持する。

(2) 特別活動等を通じた生徒の自己有用感の醸成と集団への帰属意識の向上

ア 部活動の活性化に向けた取組みの推進

- ・部活動時間が短い中であっても、効率よく活動し定時制通信制大会等へ積極的に参加する。また、部活動を通して集団の規律のあり方などを理解させる。
- ※生徒向け学校教育自己診断の項目「先生は、学校生活で自分が努力したことを認めてくれる。」の肯定率（R02 95.2%・R03 91%・R04 100%）90%以上を令和7年度まで維持する。

イ 体育や文化的行事の活性化

- ・行事等を通して、自主自立の精神や他者と関わる力を養うとともに、各行事の目標の明示と振り返りを行うことにより、達成感、自己肯定感を高める。
- ※生徒向け学校教育自己診断の項目「学校行事が楽しく行われるように工夫されている。」の肯定率（R02 100%・R03 91%・R04 100%）90%以上を令和7年度まで維持する。

(3) 学校運営上で必要な情報の共有と外部への情報発信

ア 教員間の意思疎通を高め、活発な議論と情報共有を行うための連絡会議等を実施し、学校運営上必要な情報共有を図るとともに早期発見や早期対応を実践する。

※教員向け学校教育自己診断の項目「職員会議、連絡会、情報共有会議など教職員間の意思疎通や意見交換、情報共有の場として有効に機能している」の肯定率（R02 75%・R03 61%・53%）を令和7年度には80%以上にする。

イ 学校ホームページによる積極的な情報発信を行う。特に保護者については学校ホームページとメール配信を連動させて積極的な情報提供を行う。

2 確かな学力の育成

(1) 「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善への取組み

ア わかる授業の推進と基礎学力の定着

- ・0限目授業と西野田クエストをさらに充実発展させる。
- （西野田クエスト：総合的な探究の時間において、個々の学習進度に応じて発展的に学習課題を設定し、基礎学力の向上へ主体的に学ぶ力を育成する本校独自の取組み）
- ※生徒向け学校教育自己診断の項目「授業内容はわかりやすい」の肯定率（R02 91%・R03 91%・R04 100%）を令和7年度まで90%以上を維持する。

イ 観点別学習状況の評価と授業アンケートや学校教育自己診断を活用した授業改善へ取り組む

- ・観点別学習状況の評価と授業アンケートや学校教育自己診断、教員相互の授業見学を活用することにより、PDCA サイクルを確立し、授業改善を推進する。
- ※教員向け学校教育自己診断の項目「学習意欲の高い生徒や低い生徒に対する学習指導を、個に応じた視点で工夫して行っている」の肯定率（R02 90%・R03 72%・R04 84%）を令和7年度には90%以上にする。

ウ 1人1台の端末の活用により、授業改善をさらに推進する。

- ・生徒の興味・関心を高め、協働的な学びを支援する1人1台の端末を活用した授業やグループウェア活用のための研修、研究授業を実施し教員のICT活用力を高める。
- ※教員向け学校教育自己診断の項目「コンピューター（タブレット端末）等のICT機器が授業などで活用されている。」の肯定率（R01 90%・R02 100%・R03 100%・R04 95%）90%以上を令和7年度まで維持する。

エ 教員間の授業見学や他校の研究授業への参加などを活発化し、授業改善をさらに推進する。

※教員間の授業見学参加率を令和7年度までに90%以上にする。

オ 資格取得の奨励と支援

- ・生徒の学習意欲の向上に向けての西野田クエストの活用と資格取得・検定試験合格の奨励と支援を行う。
- ※総合学科の高校の特色を生かし、組織として多様な生徒の状況に合わせ工業資格のみならず多様な資格取得や検定試験合格に向けた支援体制を充実し、資格や検定試験に挑戦する生徒の増員とその合格率を令和7年度までに60%以上にする。

3 夢と志を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立

(1) 社会の形成者としての自覚と忍耐力・責任感を養い、規範意識を身につけさせる。

ア キャリア教育の実施

- ・通用門でのあいさつなど、教職員の積極的な関わりや清掃活動など地域との交流を通して、社会人としてのマナーや規範意識を養う。
 - ・キャリア教育、志学、道徳、人権教育を総合的に行うための校内研修の充実を図る。
 - ・系統立てたキャリア教育として総合的な探究の時間やホームルームを活用し、道徳や人権等の指導内容の充実を図る。
 - ・進路担当者や学級担任等のキャリアコーディネーターを活用し、生徒の進路ニーズの把握に努める。
- ※生徒向け学校教育自己診断の項目「将来の仕事について先生と話したことがある」の肯定率（R02 86%・R03 81%・R04 100%）80%以上を令和7年度まで維持する。
- ※卒業時の進路未決定生徒数、毎年0人をめざす。（R04 0人）

(2) 出身中学校との連携による中途退学・長期欠席の防止および原級留置者の減少

ア 不登校生徒への働きかけや保護者との連携強化

- ・出身中学校、前籍校との連携および懇談、家庭訪問等による共有した情報に基づき、生徒に寄り添い、課題を抱えた生徒の出席率の向上を図る。
 - ・「教科指導」＝「生徒指導」という認識で授業にのぞむ。
- ※すべての新入生について、出身中学校を訪問する。編転入生については前籍校と連携する。生徒指導的中学校訪問回数（R02 6回・R03 16回・R04 17回）について、しっかりと連携がとれる回数を令和7年度まで維持する。
- ※当年度の出席率平均（R02 84%・R03 85%・R04 83%）80%以上を令和7年度まで維持する。

4 校務の効率化と働き方改革の推進

(1) 働きやすい職場環境づくり及び教職員の健康管理

- ア ノークラブデー、ノー残業デーの実施及び学校閉庁日の設定やゆとり月間、週間などの積極的な活用
 - ・教職員の勤務時間の管理を行い、時間外勤務時間の減少を図る。
- ※全教職員の年間1人当たりの平均時間外勤務時間を令和7年度までに年間50時間未満にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
【教員】学習指導、生徒育成に関する評価は高くなっており、少人数指導を生かした個々の生徒に合わせた指導が定着してきている。	【第1回（7/19実施）】 ・本校は、少人数で授業が受けられるため、多人数が苦手な生徒や様々な課題を持つ

府立西野田工科高等学校 定時制の課程

<p>一方、「生徒指導の方針について、教員間で十分コンセンサスが取れている」(R3 : 55.6%→R4 : 57.9%→R5 : 50.0%)、「ホームルーム活動を主とした学級活動の改善に、学級や学年、学校全体で取り組んでいる」(R3 : 61.1%→R4 : 63.2%→R5 : 55.6%)、「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」(R3 : 50.0%→R4 : 52.6%→R5 : 50.0%)の学校運営や教職員間の関係、組織的課題に関する3項目が50%台の低い評価となっている。学校運営方針をより明確にし、校務分担の見直しや、同僚性や協同性を高めるための取り組みが必要である。</p> <p>【生徒】4項目が70%台、他の項目は80%以上となっており、全般的に高い評価である。 R3年度からの推移では、70%台の4項目、「自分が興味・関心の持てる教科や科目がある」(R3 : 90.5%→R4 : 92.3%→R5 : 77.8%)、「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽にそうざんすることができる先生がいる」(R3 : 90.5%→R4 : 92.3%→R5 : 72.2%)、「先生はいじめ・暴力や体罰セクシャルハラスメントなど困っていることがあれば真剣に対応してくれる」(R3 : 85.7%→R4 : 100%→R5 : 72.2%)、「クラブ活動や生徒会活動の時間は充実している」(R3 : 85.7%→R4 : 92.3%→R5 : 72.2%)が低迷傾向にある。 多様な生徒状況に応じた授業展開の工夫、教育相談体制整備と教員との関係性向上、授業以外の教育活動においてさらなる取り組みを進めていきたい。</p> <p>【保護者】すべての項目で80%以上(10項目中7項目で100%)となり、昨年度より高い評価をいただいた。昨年度課題であった回答率についても(R4 : 21%・3名→R5 : 47.6%・10名)と改善した。</p>	<p>た生徒にとっても登校しやすい学校となっていると思うが、中学校や保護者との連携を通じて生徒がより登校しやすい学校づくりをお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語指導の必要な生徒が複数いるが、順調に学校生活を続け、卒業後の進路に向け取り組んでいることを聞き安心している。 資格取得について工業資格だけでなく、生徒の成功体験につながるような資格も精選し資格取得をめざした指導をお願いしたい。 保護者としては、学校に来て子供がどのように授業を受けているか見たい。授業参観など保護者が学校に来る機会を増やしてほしい 教員間の授業見学については、研究授業も大切であるが、互いに気軽に教員間で授業を見学し、より良い授業になるように取り組んでほしい 学校パンフレットが新しくなったが、以前のものより見やすくわかりやすくなった。このパンフレットを使い、学校広報をして、本校の志願者が増えることを期待している。 <p>【第2回(10/16実施)】</p> <ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーやスクールロイヤーによる研修を実施しているが、多様な生徒がおり、それらの生徒を支援するために多面的なアプローチを先生方が学ぶことは大切なことだと思う。様々な先生方の困りごとに対してタイムリーに校内研修などをしてしっかり進めてほしい。 学校を長期に欠席してしまっている生徒のフォローを引き続き、しっかりお願いしたい。頻繁な家庭訪問や連絡を通して、関係性の維持と本人の気持ちをしっかりと聞き取ってほしい。 教科書選定に関して、来年度は、3学年が新学習指導要領のもとで三観点に基づいた指導・評価となるが、ペーパーテストだけでなく学び方などが重視される。先生方には負担になることもあるが、しっかりとした検討・取組みをお願いしたい。 <p>【第3回(1/26実施)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断では、先生方の連携に関する部分が低くなっている。これは、先生方自身のもっとこんな話ができればとの思いが表れていると思う。先生方の余裕時間を捻出する工夫などをして生徒や授業のこともっと話し合うことで、先生方の連携がよりよくなると思う。今年度の、会議回数を減らす取り組みなどを聞いて、今後、良くなると思う。期待している。 保護者の評価が昨年度より良くなっている。今後とも、丁寧な生徒、保護者対応をお願いする。 本校がR8年度で閉校となることは、学校運営協議会として残念に思っている。来年度、入学する生徒のうち4年制を選択する生徒が4年生になったとき、今宮工科高校に通うことになる。先生方には、この学校に通う3年間でしっかりと生徒たちを育成し、4年目は今宮工科高校の校地で学び、西野田工科の生徒としてしっかりと卒業できるように指導をお願いしたい。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 安全 安心 で 魅力 ある 学校 づくり	(1)生徒の居場所づくりと個々の生徒への支援体制の強化 ア 教育相談体制の確立 イ 個に応じた支援体制のさらなる充実と外部人材の活用及び関係機関との連携 ウ 命を守ることや健康を維持増進することに主体的に取り組む力を育むために保健、交通安全や薬物乱用防止、防災・防犯についての教育の充実を図る。 (2)特別活動等を通じた	ア・生徒一人ひとりに寄り添い、教員と生徒との信頼関係を築き、生徒が学校に行きたいと思える学校づくりを行う。 ・ケース会議などを通じて生徒情報の共有を図り、生徒一人ひとりに応じた生徒支援・指導を行う。 イ・支援コーディネーターを中心にSC、SSWと関係機関、教職員、保護者(生徒)の4者(5者)が有機的に連携協力できる体制づくり。 ・個々の生徒状況に合わせた支援教育や学び直し、日本語指導などの生徒支援、生徒のコミュニケーション能力の育成などに関する外部人材の活用および教員の校内外の研修への参加。 ウ・主体的に健康の保持増進に取り組むことができるように、保健や食育、安全についての情報を生徒、保護者に「保健だより」などの配布や学校ホームページへの掲載により発信する。 ・生徒が安心して学ぶことができる環境を整えるために生徒の心身の状態を日常的に把握、適切に対応する。 ・地域の公的機関等の外部人材を活用した教職員、生徒への研修や講習を実施する。	ア・生徒向け学校教育自己診断の項目「悩みや相談にのってくれる先生がいる」の肯定率90%以上を維持する。[100%] ※本年度、アンケート項目を見直し、本項目については、「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができ先生がいる」[92%]に統合した。担任の先生以外としたことで組織としての取り組みとしてより適した指標とした。 イ・教員向け学校教育自己診断の項目「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」の肯定率を80%以上にする。[74%] ・様々な生徒支援や生徒のコミュニケーション能力向上等の教員向け研修への参加者数100人以上を維持する。[112人] ウ・主体的に健康の保持増進に取り組むことができるように、保健や食育、安全についての情報を生徒、保護者に「保健だより」などの配布や学校ホームページの掲載20回以上を維持する。[26回] ・生徒の心身の健康状態を把握し、保健室、学級担任との情報共有を行うために、毎日の健康チェックカードの活用を継続する。 ・外部機関等との連携による避難訓練や講習、校内研修を年3回以上実施する。[3回]	ア・「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができ先生がいる」の肯定率72%(△) 70%以上の生徒が肯定的にとらえており、おおむね、組織として生徒との信頼関係は構築されているが、学年所属教員を含む組織としての取り組みをさらに進めていく。 イ・「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」の肯定率61%(△) SSW、SCと学年所属教員を中心とした更なる連携体制の構築を推進する必要がある。合わせて、教育相談についての生徒への周知をさらに図る。 ・教員向け研修への参加者数 延べ210人(◎) ウ・生徒、保護者に「保健だより」などの配布や学校ホームページの掲載30回(◎)(保健だより19回、食育だより11回) ・コロナウイルス感染症の5類移行に伴い健康チェックカードの活用を休止したが、生徒登校時の校門当番、授業担当者による生徒の健康状態の把握と保健室、担任への情報共有を円滑に行えた。(○) ・外部機関等との連携による避難訓練や講習、校内研修実施件数 3件(○)(避難訓練、健康教育、AED教育)

府立西野田工科高等学校 定時制の課程

	<p>生徒の自己有用感の醸成と集団への帰属意識の向上</p> <p>ア 部活動の活性化に向けた取組みの推進</p> <p>イ 体育や文化的行事の活性化</p> <p>(3) 学校運営上で必要な情報の共有と外部への情報発信</p> <p>ア 教員間の意思の疎通を高め、活発な議論と情報共有を行うための連絡会議等を実施する。</p> <p>イ 学校ホームページによる積極的な情報発信を行う</p>	<p>ア・部活動時間が短い中でも、効率よく活動し、定時制通信制大会等へ積極的に参加する。また、あいさつや時間厳守、準備・片付けなど部活動を通して集団の規律のあり方を指導する。</p> <p>イ・達成感、自己肯定感を高めるために、行事等を通して、自主自立の精神や他者と関わる力を養うとともに、各行事の目標の明示と振り返りを行う。</p> <p>ア・教員間の意思の疎通を高め、活発な議論を行うための連絡会議等を実施し、学校運営上で必要な情報共有を図るとともに早期発見や早期対応を実践する。</p> <p>イ・学校の様々な教育活動を学校ホームページに掲載し、保護者や地域に情報を発信する。特に保護者については学校ホームページとメール配信を連動させて積極的な情報提供を行う。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断の項目「先生は、学校生活で自分が努力したことを認めてくれる」の肯定率 90%以上を維持する。[100%]</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断の項目「学校行事が楽しく行われるように工夫されている。」の肯定率 90%以上を維持する。[100%]</p> <p>ア・教員向け学校教育自己診断の項目「職員会議、連絡会、情報共有会議など教職員間の意思疎通や意見交換、情報共有の場として有効に機能している」の肯定率を 70%以上にする。[53%] ※本年度、アンケート項目を見直し、本項目については、「学校の教育活動について教職員で日常的に話し合っている」[58%]に統合した。会議だけでなく日常的な教職員間の意思疎通や意見交換、情報共有の改善がより本質的に必要として指標とした。</p> <p>イ・保護者向け学校教育自己診断の項目「学校はパソコンやスマートフォンなどインターネットで情報提供している」の肯定率、90%以上を維持する。[100%] ※本年度、アンケートの文言を見直し、「学校は、子供の様子、クラスや行事などの教育活動について情報提供している」とした。</p>	<p>ア・「先生は、学校生活で自分が努力したことを認めてくれる」の肯定率 94%(○)</p> <p>イ・「学校行事が楽しく行われるように工夫されている。」の肯定率 94%(○)</p> <p>ア・「学校の教育活動について教職員で日常的に話し合っている」の肯定率 72%(○)</p> <p>イ・「学校は、子供の様子、クラスや行事などの教育活動について情報提供している」の肯定率 100%(◎)</p>
<p>2 確かな学力の育成</p>	<p>(1)「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善への取組み</p> <p>ア わかる授業の推進と基礎学力の定着</p> <p>イ 観点別学習状況の評価と授業アンケートや学校教育自己診断を活用した授業改善の推進</p> <p>ウ 1人1台の端末活用により、授業改善をさらに推進する。</p> <p>エ 西野田クエストの活用と資格取得の奨励と支援</p>	<p>ア・タブレット端末等の ICT 機器の活用など、個々の生徒に応じた学習支援による「わかる授業」を推進する。また、基礎学力定着のために0時限目授業と西野田クエストの充実発展を図る。</p> <p>イ・観点別学習状況の評価と授業アンケートや学校教育自己診断を活用することにより、PDCA サイクルを確立し、授業改善を推進する。</p> <p>ウ・生徒の興味・関心を高め、協働的な学びを支援する1人1台の端末を活用した授業やグループウェア活用のための研修、研究授業を実施し教員の ICT 活用力を高める。</p> <p>エ・教員間の授業見学、他校研究授業への参加を活発化する。</p> <p>オ・生徒一人ひとりの主体的な基礎学力向上への取り組みを支援し、学習意欲を高めるために、総合的な探求の時間を中心に西野田クエストを活用する。 ・西野田クエストの指導方法、評価方法などを見直し、生徒が達成感を感じ成長につながる工夫をする。 ・総合学科の高校の特色を生かし、組織として多様な生徒の状況に合わせた資格取得・検定試験合格に向けた支援、指導を行う。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断の項目「授業内容はわかりやすい」の肯定率、90%以上を維持する。[100%]</p> <p>イ・教員向け学校教育自己診断の項目「学習意欲の高い生徒や低い生徒に対する学習指導を、個に応じた視点で工夫して行っている」の肯定率 80%以上を維持する。[84%] ・授業アンケートについての振り返りシートの全教員の提出。[100%]</p> <p>ウ・教員向け学校教育自己診断の項目「コンピューター（タブレット端末）等の ICT 機器が授業などで活用されている。」の肯定率、90%以上を維持する。[95%]</p> <p>エ・教員間の授業見学参加率を 80%以上にする。[新規]</p> <p>オ・西野田クエストの延べグレードアップ率を 60%以上とする。[55%] ・資格取得・検定試験合格に挑戦する生徒の増員及びその合格率、50%以上にする。[新規]</p>	<p>ア・「授業内容はわかりやすい」の肯定率 89%(○) 目標値に1%未達であるが、生徒数が昨年より30%増加しており、その中で個々の生徒の状況に合わせた学習指導ができています。</p> <p>イ・「学習意欲の高い生徒や低い生徒に対する学習指導を、個に応じた視点で工夫して行っている」の肯定率 89%(○) ・授業アンケートについての振り返りシート提出率 100%(○)</p> <p>ウ・「コンピューター（タブレット端末）等の ICT 機器が授業などで活用されている。」の肯定率 100%(◎)</p> <p>教員間の授業見学参加率 89%(○)</p> <p>オ・西野田クエストの延べグレードアップ率 65%(○) 目標は達成したが、学習面で多様な生徒の割合が増えた。そのため、生徒の基礎学力向上の取組み、評価方法の更なる見直しを検討していく。 ・資格取得・検定試験合格に挑戦する生徒増員及びその合格率 受検者3名、合格率 67%(○)</p>
<p>3 夢と志を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立</p>	<p>(1)社会の形成者としての自覚と忍耐力・責任感を養い、規範意識を身につけさせる。</p> <p>ア キャリア教育の実施</p> <p>(2)出身中学校との連携による中途退学・長期欠席の防止および原級</p>	<p>ア・生徒の社会人としてのマナーや規範意識を養うために、毎日の通用門でのあいさつなど教職員から積極的にかかわりを持つとともに、校外での清掃活動など地域との交流を行う。 ・キャリア教育、志学、道徳、人権教育を総合的に行うための校内研修を実施する。 ・系統立てたキャリア教育として総合的な探究の時間やホームルームを活用し、道徳や人権等の学習を行う。 ・進路担当者や担任等のキャリアコーディネーターを活用し、生徒の進路ニーズを把握し、継続したキャリア教育を行う。 ・生徒の自己肯定感を高め、進路実現に必要な力を身につけさせるために、キャリアパスポートの作成に取り組みさせる。</p>	<p>ア・あいさつを通して、生徒と教職員の信頼関係を高めるために、始業前から終業後までの校門当番常駐体制を年間を通して継続する。 ・地域清掃を年2回以上実施する。[3回(全校生徒1回、生徒会生徒2回)]</p> <p>・外部連携したキャリア教育関連の講習会、会社訪問などを3回以上行う[新規]</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断の項目「将来の仕事について先生と話したことがある」の肯定率、80%以上を維持する。[100%]</p> <p>・卒業時の進路未決定者0人をめざす。[0人]</p> <p>・各教科の授業、考査、HR、学校行事、特別活動等について、生徒が自分自身の目標設定と振り返りを行うためにキャリアパスポートを年間18回以</p>	<p>ア・生徒の登下校時の校門当番常駐の実施と登校生徒への挨拶指導を計画通り実施。全生徒が教員とあいさつができるようになった。(○) ・全校生徒による地域清掃実施回数2回(◎)全校生徒による実施回数は昨年度より増加した。 ・外部連携したキャリア教育関連の講習会、会社訪問など実施回数 3回(○) ・「将来の仕事について先生と話したことがある」の肯定率、94%(◎)</p> <p>・卒業時の進路未決定者数：1名(○)学校斡旋希望者の就職は全員決定済み。その他の要因で進路検討中の1名は、継続指導をおこなっていく。 ・キャリアパスポート活用回数:29回(◎)今年度から、教科活動についてもキャリアパスポートの活用を開始した。</p>

府立西野田工科高等学校 定時制の課程

	<p>留置の減少 ア 不登校生徒への働きかけや保護者との連携強化</p>	<p>ア・課題を抱えた生徒の出席率の向上を図るために、出身中学校、前籍校との連携および保護者懇談、家庭訪問、電話相談により共有した情報に基づき、個々の生徒への指導、支援に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級担任を中心に欠席・遅刻の多い生徒への素早い対応を行い、生徒の状況を把握し、保護者と連携して欠席・遅刻の増加を防ぐ。 ・授業参観など保護者が生徒の学校での状況を知る機会を増やす。 ・ケース会議を迅速に開催し、SC、SSW との情報共有を図ることにより関係機関との連携等を含めた適切な生徒支援をおこない、中途退学者数、原級留置者数を減少させる。 	<p>上活用する。[23 回]</p> <p>ア・中学校と連携がとれる訪問回数を維持する。[17 回]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携がとれる訪問回数を維持する。[15 回] ・生徒全員の出席率平均、80%以上を維持する。[83%] ・進級（卒業）率を昨年度よりも高める。[81%] 	<p>(1 年：6 回、2 年：11 回、3 年：12 回)</p> <p>ア・中学校訪問件数：18 回 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問回数：48 回 (◎) (電話連絡回数：310 回) ・生徒の出席率：81% (○) ・進級（卒業）率：86% (◎)
<p>方 改 革 の 推 進</p> <p>4 校 務 の 効 率 化 と 働 き</p>	<p>(1) 働きやすい職場環境づくり及び教職員の健康管理</p>	<p>ア・ノークラブデー、ノー残業デーの実施及び学校閉庁日の設定やゆとり月間、週間などの積極的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間の管理を行い、時間外勤務時間の減少を図る。 	<p>ア・全教職員の年間 1 人当たりの平均時間外勤務時間について年間 50 時間未満にする。[54 時間 00 分]</p>	<p>ア・全教職員の年間 1 人当たりの平均時間外在・校時間：68 時間 7 分 (△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染症の 5 類移行による学校行事等の通常化、生徒数の 30% 増加により時間外在時間が増加した。 ・実績値は、関係法令の基準 (450 時間) からは十分に低いが、目標は未達。